

## コムクドリ雄の plumage coloration の変異と繁殖行動（2）

----PC（頬斑）タイプと C（えりまき）タイプ雄の繁殖努力に違いがあるか?-----

竹中万紀子（北海道東海大学）

コムクドリは♂♀ともに羽色や模様に関体変異が観察される。特に、♂の頭部の栗色斑の大きさや模様の個体変異は大きい。2004 年まで同種♂の頭部羽色の追跡調査を行った。その結果、頭部の栗色斑の大きさ、模様・形状には、経年変化がほとんどないことがわかった。したがって、頭部の栗色斑は、個体の加齢と共に頭部の栗色の部分が大きくなるといった年齢の indicator である可能性は低いと考えられ、頭部栗色斑の大きさ形態はむしろ♂の繁殖行動の特徴を示す flag の役割を果たしている可能性が高いと考えられた。実際、2004 年までの調査で、頭部栗色斑の大きさやパターンと繁殖行動の間には関連があり、栗色部分が最も小さく、両頬に斑状に分布する（Patch Cheeked =PC）タイプの♂のほうが1夫2妻になる個体が多く、逆に頬斑の面積が広く、頭全体をえりまきのようにとりまいている（Collared=C）タイプの♂では1夫2妻となる個体は観察されなかった。これらの中間タイプである（Mottled=M）では1夫2妻の出現率は両者の中間的な値を示した。

頭部羽色パターンが♂の繁殖行動の特徴を示す flag の役割を果たしているならば、これらの変異と実際の個体の繁殖努力の間には関連がないのだろうか?この点を明らかにする1段階として各繁殖巣近くに、ビデオカメラを設置し、♂親、♀親の繁殖行動を記録している。今回の報告では2004、2005年の繁殖期のVTRデータ解析の一部を紹介する。主に2タイプ(PCタイプの♂とCタイプの♂)の繁殖努力を1)造巣、2)抱卵、3)育雛の3段階に分けて示す。両年とも観察対象となったPCタイプの♂が1夫2妻とならなかった年である。

造巣期では、巣材運び回数と巣内滞在時間を比較したが、両タイプの♂の間で繁殖努力にあまり差が見られなかった。抱卵期と育雛期の初期は、主に巣内滞在時間を比較した。その結果、PCタイプの♂のほうが営巣への貢献度が低い傾向があった。一方、Cタイプの♂は配偶相手とほぼ同等の時間を抱卵に割いていた。

コムクドリでは、♂が2番目の配偶者を得る時期は1番目の巣の抱卵期が多い。さらなる観察で明らかにしていく必要があるが、PCタイプの♂は第1♀に抱卵を任せ、第2♀を得ることに時間を割いている可能性がある。

以上のことから、頭部羽色パターンは♂の子育てへの協力の度合いを示す flag の役割を果たしている可能性も考えられる。